日刊 動労千葉
81.4.8
No. 710
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二-八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四三（22）七二〇七

大量不当処分粉砕 '81春闘勝利 4・6局前総決起集会に510名が結集

四月六日、わが動労千葉は、大量不当処分攻撃に対し怒りの減産闘争に決起すると同時に六日夕刻、千葉鉄局前をうめつくす五一〇名の結集をもって「大量処分粉砕・八一春闘勝利総決起集会」を圧倒的にかちとった。

われわれは、この四・六総決起を新たな出発点として、不当処分粉砕・八一春闘勝利・国鉄三五万人体制粉砕・二期着工阻止にむけ着実に闘いぬこうではないか。

不当処分を絶対許さない
動労千葉の闘いは正当な権利だ
……関川委員長
……北原事務局長

四・六総決起集会は、千葉鉄局の正面入口をロープで閉鎖し周辺に局課長・公安など約五〇～六〇名を配置するという当局側のかつてないものものしい弾圧体制の中で全支部から減産闘争を闘いつつ続々と組合員が結集し、一七時五〇分過ぎ、関執行委員の司会で開催された。

冒頭、関川委員長より「国鉄当局は、われわれの正当なジェット期限延長阻止の闘いに対し、四月三日、二二五名という大量不当処分を通告してきた。国鉄当局のこのようなやり方を認めない。一三〇〇組合員の団結をより強化し、今後共闘いぬこう。」との決意表明が行なわれた。

つづいて、反対同盟より　大会事務局長・長谷川たけさん、小川むつさんが激励にかけつけ、代表して北原さんよりあいさつを受ける。「政府は、貨車輸送は三年という決定を自ら反古にして再び動労千葉にジェット輸送を強要してきた。動労千葉が闘うのが当然であり、正当な権利だ。又、この動労千葉の闘いを妨害し破壊しようとしてきた『本部』革マルを絶対に許さない。

反対同盟は、全国をかけめぐって動労千葉を守るため全力でとり組むことを決定した。一三〇〇の皆さんは、さらに団結を固めて闘って下さい。」

さらに、社会党千葉市議の小川義人氏より「四名の解雇を含む処分攻撃に怒りをもってこの集会に参加した。沼田新知事は空港建設を強力に推進するといっている。政府は、動労千葉の存在を目障りに思い、今回の処分攻撃をかけてきた。それに負けてはならない。共に闘おう」と激励のあいさつ。

三月決戦闘争に自信と確信をもって さらに闘いぬこう！
―布施副委員長の基調報告―

つづいて布施副委員長より次のような基調報告がなされた。

①今回の大量不当処分攻撃は、逆にわれわれが敵に大きな打撃を与えたことを意味している。

②三月闘争は、右傾化する労働運動の中で、闘う情勢を大きく切り拓き、三里塚闘争勝利の展望を明らかにし、秋山労政に痛打を浴びせた。

③権力―当局―『本部』革マル一体となった弾圧と闘争破壊攻撃の中で三月闘争を断固闘いぬいたが故に、動労千葉つぶしのための大量不当処分を通告してきた。

④マスコミは、権力・政府の意をうけて政治闘争をたたかう動労千葉批難をくりかえしている。

⑤全国の多くの国鉄労働者が「動労千葉のように闘おう」と続々と決起し支援の声が起っている。

われわれは、三月闘争に自信と確信をもって職場を基礎に闘いぬくならば、必ず勝利できる。

今後、三五万人体制粉砕・八一春闘勝利・三里塚二期阻止へさらに闘いぬこう。

この後、二二五名の被処分者を代表して、不当解雇の通告を受けた本部、水野山口、吉岡執行委員から、それぞれ「今後、動労千葉の旗を守って皆さんの先頭で闘いぬく」と固い決意表明が行なわれた。（決意表明は、後日「日刊」で掲載します。）つづいて田中青年部長の決意表明、最後に中野書記長の閉会のあいさつ、怒りのシュプレヒコール・デモ行進・組合歌合唱をもって終了した。